

II. 口呼吸が成長期の子供に及ぼす影響

九州歯科大学名誉教授 山口 和憲



略 歴

学歴

- 昭和48. 3 福岡県立九州歯科大学歯学部歯学科 卒業
- 48. 4 広島大学歯学部大学院歯学研究科歯学臨床系（歯科矯正学）専攻入学
- 48. 6 歯科医師免許証（歯科医籍登録番号63235号）、
- 52. 3 広島大学歯学部大学院歯学研究科歯学臨床系（歯科矯正学）専攻単位修得退学
- 55. 2 歯学博士（広島大学）

職歴

- 昭和52. 4 文部教官広島大学助手歯学部（歯科矯正学講座）
- 56. 4 徳島大学助教授歯学部（歯科矯正学講座）
- 61. 9 アメリカ合衆国（カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部成長発育センター、イリノイ大学歯学部歯科矯正学講座、コネチカット大学歯学部歯科矯正学講座）、カナダ（トロント大学歯学部歯科矯正学講座、バーリントン成長発育センター）
外国出張（文部省在外研究員）（昭和61年11月21日まで）
- 平成1. 9 アメリカ合衆国へ研究休職（オクラホマ大学歯学部歯科矯正学講座、客員助教授）（平成2年8月31日まで）
- 2. 12 広島大学助教授歯学部（歯科矯正学講座）
- 7. 6 アメリカ・オクラホマ大学客員教授歯学部（歯科矯正学）
同上 master of science (MS) 審査委員
- 12. 4 九州歯科大学教授 歯科矯正学講座
- 26. 3 九州歯科大学 退職
- 26. 5 九州歯科大学名誉教授

学会活動

- 昭和56. 04 中四国矯正歯科学会評議員（平成7年12月31日まで）
 - 62. 10 第46回日本矯正歯科学会大会事務局長
 - 平成3. 01 日本矯正歯科学会認定委員会幹事（平成3年12月まで）
 - 4. 01 日本矯正歯科学会会長補佐（平成6年12月31日まで）
 - 6. 01 日本矯正歯科学会雑誌査読委員
 - 6. 10 アメリカ矯正歯科学会雑誌査読員
 - 7. 01 日本矯正歯科学会認定委員（平成8年12月31日まで）
 - 8. 03 E. H. Angle Society 正会員
 - 11. 10 第58回日本矯正歯科学会大会事務局長
 - 12. 04 日本矯正歯科学会 評議員
 - 14. 01 Angle Orthodontist 雑誌 査読委員
 - 21. 11 第68回日本矯正歯科学会大会会長
 - 25. 02 第8回九州矯正歯科学会大会会長
- 日本矯正歯科学会認定医（登録番号956号）、日本矯正歯科学会指導医（登録番号300号）
- 賞罰 1991年 The Edward H. Angle Research Prize

1. 口呼吸の鑑別診断の必要性

口呼吸をもたらす影響を議論する時に、問題となるのが患者、あるいは被験者が本当に口呼吸者であるのかという疑問である。患者の保護者から聞く言葉である。“いつも唇を開いているが出歯なのか？ 口呼吸なのか？” 安静時および機能時の口唇の離開をもたらす要因が二つ考えられる。

1) 歯列咬合に関連した口唇の離開 (口唇閉鎖機能不全)

一つは口唇閉鎖機能不全であり無意識下では口唇は離開し、口唇を閉鎖しようとするすると下唇が緊張するため、臨床的にはオトガイ部のヒフの緊張を肉眼的に観察することが出来る。上顎前突や上下顎前突のような歯列の前後的關係のズレや、開咬や切端咬合などの歯列の垂直的不調和をもたらす。

2) 口呼吸による口唇の離開

鼻腔通気道の閉鎖閉塞は口腔を気道とする口呼吸を引き起こし、安静時および機能時の口唇の離開をもたらす。しかし、口唇の閉鎖機能は正常であるので口唇閉鎖時には下唇の緊張はない。

そこで、口呼吸の影響を検討する前に、口唇の離開をもたらす二つの要因を基本に口呼吸の鑑別診断に用いられる様々な方法の有用性を検証する。

2. 口呼吸の鑑別法

1) 臨床検査

2) 口唇の離開や鼻詰まりに関する問診とアンケート調査

3) 鼻腔通気抵抗の大きさの計測

4) 口からの呼気の実測

5) 口唇閉鎖離、離開時の下唇の筋電図 (口唇閉鎖機能検)

3. 口呼吸の影響

鼻呼吸であると鑑別した被験者において口呼吸が及ぼす影響を検討する。

1) 口呼吸がもたらす垂直的な咬合異常

(1) 口呼吸咀嚼時の咀嚼力の大きさと作用時間の低下と減少と大白歯の挺出

(2) 大白歯の垂直的位置と下顎の垂直的位置 (時計回転)

2) 口呼吸時の咀嚼力の低下、および咀嚼回数と咀嚼時間の減少

3) 口呼吸咀嚼時の呼吸数の減少と呼吸運動 (胸郭運動) の増大

4) 集中力の低下